

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第065号(通算)夏季特別号 令和4年7月29日(金)発行
本日で、夏季補習前半も終了です。明日からは、本格的な夏休みですが、2年生は、「夏トライ・グレードアップ・ゼミ」も開催されます。いろいろな上級学校のオープンキャンパス等もこの時期に開催されます。計画を立て、準備を怠らず、夢への第一歩を踏み出しましょう。

～ 学年朝礼 ～

令和4年7月11日(月)

1 学年 中原先生の講話



熱中症の主な原因のひとつ

「脱水」

高校生の身体は約60%が水分であり、そのうち2%以上失われると症状が出ます。(めまい、ふらつき、吐き気等)こまめな水分補給が必要ですが、忙しいと忘れがちです。

【身体が出してくれる脱水のサイン】

- ①爪の色:親指の爪を押さえて5秒後に離す→ピンク色に戻るまでに2秒以上かかる(危険)
- ②尿の色:普段より色が濃い。濃い黄色～茶色(危険)
- ③だ液の状態:だ液がネバネバ、だ液が出ず口の中がカラカラ
- ④口臭:だ液が出ない→細菌が急激に増殖→口臭が発生

これらのサインがあれば、すぐに水分補給!

2 学年 生徒による発表



今回の発表者は、内木場ゆいさん、西祐侑さん、有村まどかさん、久保璃夏さん、森紗香さんの5名でした。

クラスマッチ直前の話題は、スポーツのはじまりはいつ? という問いかけから始まりました。自分の興味がある種目の歴史(バレーボールやソフトボール)などについて調べたものを発表したり、最後は、なぞなぞ(QUIZ)とバラエティに富んだ講話のリレーとなりました。

3 学年 大島先生の講話



「山の景色～登山に学ぶ」

この景色(普段と見ることのできない景色・自分の弱さを克服)を見たいがために時々山に登る。

登り始めは毎回のごとく、「苦しい、どうして山にきてしまったのだろう」、「つらい、いっその場から引き返そうか」と心の中では葛藤が始まる。そんなときふと足元に普段見ることのできない草花が咲いていたり、小動物が現れたりすると、「もう少しだけ頑張ってみるか」と背中を押され脚が進む。(山は友達のような存在)それに自然の中にいると人は本当に小さい生き物だと感じる。今まで思っていたことも「なんて小さな事で悩んでいたのだろう」とも。逆に鹿児島県人でも日本人でもなく、「自分は地球人だ!」と感じ、心が大きくなる景色を見ることがある。さらに、山は見る位置を変えると、これが本当にあの山なのか。と思うこともあり、人も多方から見ると、その人なりが深くわかることを学ぶ。

山の標高が高いから登山に係る時間が長くなるという訳でもない。登り口の標高が高いと頂きまでの時間は短くなる。事前の情報収集は大事。想定外もよく起こる。山の天気なんてしょっちゅう変わる。対応できるよう準備も必要。

山に行くと誰とでも挨拶を交わす。単独で登ってもいつの間にかパーティになることもある。受験は団体戦と言われることに似ているかも。

山は自分の脚で一歩一歩登っていく。当たり前だが登ったら降りなければいけない。体力が必要。頂上ではぜひ達成感を味わって欲しい。受験勉強は孤独かもしれないが、ひとりではない。見渡せばみんながいる。受験勉強と登山は似ているかも。

1学年PTA進路研修会

令和4年7月13日(水)



7月6日の3学年PTAに引き続き、13日には、1学年PTAが開催されました。今回は、保護者は、尚学舎で。生徒たちは、視聴覚室と分かれて、二元中継で進路講演会を実施しました。途中、画像が乱れることもありましたが、また一つ学校行事が開催できました。9月の体育祭も、新型コロナの感染防止と熱中症対策にしっかりと取り組みながら実施予定です。

【なぎなた部全国大会出場壮行会】



【表彰式】



【新生徒会役員任命式】



【終業式】



令和4年7月20日は壮行会、表彰式、任命式と終業式が行われました。校歌演奏(音楽部)は一番だけで終わりましたが、全生徒で声高らかに校歌を唄えることを願っています。

川辺小出前授業の記事が新聞に掲載

令和4年7月20日(水)



南日本新聞の記事と実験の様子
サイエンス部員の活躍が新聞記事となりました。2学期には、川辺中で実施予定です。

～ A E D 講習会 ～

令和4年7月20日(水)



各部活の代表生徒と職員が、不慮の事故など、緊急時のAEDの使用法を学びました。

～ 川辺祇園祭 ～

令和4年7月24日(日)

23日の内祭に始まり、24日は、本祭、発幸祭、御神幸行列等パレード、着幸祭が行われ、夜には花火大会も開催されました。御所車には十二単をまとった祇園官女として、本校3年の生徒が二人のっていました。

